

分析結果報告書〔5〕 1 / 3

3 . 底質試料 1 (ベンゾ(a)ピレン)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1 . ISO 9001 ~ 9003 2 . ISO 14001 3 . ISO/IEC 17025(ガイド 25) 4 . M L A P 5 . 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析担当者名	
分析担当者の経験年数	() 年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	()

測定回数 注1)	()
----------	-----

注1) 分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連操作を行った回数(1~5の整数)を記入する。
この測定回数分の分析結果を次の表<分析結果>に記入する。

<分析結果>

回数 注2)	分析結果(μg/kg) 注3)	
	検出下限値以上	検出下限値未満での検出下限値
1回目		
2回目		
3回目		
4回目		
5回目		

注2) 上記で記入した測定回数分の分析結果を記入する。

注3) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。
分析結果(検出下限値以上)は有効数字3桁、検出下限値未満での検出下限値は有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1 . GC / MS
------	-------------

<測定用試料液の調製>

試料量 注4)	1回目 () g 2回目 () g 3回目 () g 4回目 () g 5回目 () g
試料からの抽出 溶媒の種類 1回当たりの溶媒の使用量 1回当たりの抽出時間 振とう 超音波 抽出回数	1 . アセトン 2 . その他 () () ml () 分 () 分 () 回
液・液抽出 溶媒の種類 1回当たりの溶媒の使用量 1回当たりの抽出時間 振とう 抽出回数	1 . ヘキサン 2 . その他 () () ml () 分 () 回
クリーンアップ方法	1 . シリカゲルカラム 2 . フロリジルカラム 3 . その他 () 4 . 行わない
濃縮の方法 ロータリーエバポレー KD 窒素吹き付け その他の方法	1 . 行う 2 . 行わない 1 . 行う 2 . 行わない 1 . 行う 2 . 行わない 方法 ()
定容量(測定用試料液量)	() ml

注4) 測定回数分の試料量を記入する。

分析結果報告書〔5〕 2 / 3

< GC / MS >

GC	型式	1. GC17シリーズ 2. GC2010シリーズ 3. 5890シリーズ 4. 6890シリーズ 5. TRACE GC 6. その他()
MS	型式	1. Auto Spec シリーズ 2. JMS700シリーズ 3. JMS800シリーズ 4. JMS(2.3.以外) 5. MAT95シリーズ 6. SX102 7. 5972シリーズ 8. 5973シリーズ 9. 6890シリーズ 10. QP5000シリーズ 11. QP5050シリーズ 12. QP2010 13. オートマスシリーズ 14. その他()
	装置型式	1. 単収束 2. 二重収束 3. 四重極 4. イオントラップ 5. その他()
	イオン検出法	1. SIM法 2. マスクドイオン法 3. その他()
カラム	型式	1. Aquatic 2. BPX5 3. BPX50 4. BPX-DXN 5. CP-Sil88 6. DB1 7. DB5(MS) 8. DB17(MS) 9. HP1 10. HP5(MS) 11. HT8(PCB) 12. PTE5 13. RH12(MS) 14. Rt x 5(MS) 15. Rt x 50(MS) 16. Rt x 624 17. SP2331 18. TC5 19. その他()
	内径	() mm
	長さ	() m
	膜厚	() μm
昇温条件	初期	温度()、温度保持()分
	1回目の昇温	速度() /分 到達温度() 温度保持()分
	2回目の昇温	速度() /分 到達温度() 温度保持()分
	3回目の昇温	速度() /分 到達温度() 温度保持()分
	4回目の昇温	速度() /分 到達温度() 温度保持()分
	(5回以上の昇温の場合) 昇温回数	最終温度()、温度保持()分 回数()回
キャリアーガス条件	種類	1. 窒素 2. ヘリウム 3. その他()
	流量 注1)	() ml/分
	圧力 注1)	() 単位: 1. psi 2. kPa 3. その他()
注入	量	() μl
	注入口温度	()
	注入方式	1. スプリット 2. スプリットレス 3. コールドオンカラム 4. パルスドスプリット 5. その他()
定量用質量数		()

< 標準原液 >

区分	1. 購入 2. 自作
購入: メーカー名	1. 関東化学 2. シグマアルドリッチ 3. ジーエルサイエンス 4. 林純薬 5. 和光純薬 6. その他()

< 検出下限 >

項目	検出下限(μg/kg) 注2)
ベンゾ(a)ピレン	

注1) 流量又は圧力を記入する。

注2) 試料中の濃度(μg/kg)として示す。

分析結果報告書〔 5 〕 3 / 3

< 検量線の作成等 >

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
サンプル内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	1. 使用する 2. 使用しない 1. ベンゾ(a)ピレン-d12 2. フェナントレン-d10 3. フルオランテン-d10 4. p-ターフェニル-d14 5. 1,2-ジフェニルエタン-d14 6. クリセンd12 7. ナфтаレン-d8 8. フルオレン-d10 9. ヘキサクロロベンゼン-13C6 (HCB-13C6) 10. その他 () () ng (GC/MS測定試料液への添加量)
サンプル内標準物質 注1) 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	1. 使用する 2. 使用しない 1. ベンゾ(a)ピレン-d12 2. フェナントレン-d10 3. フルオランテン-d10 4. p-ターフェニル-d14 5. 1,2-ジフェニルエタン-d14 6. クリセンd12 7. ナфтаレン-d8 8. フルオレン-d10 9. ヘキサクロロベンゼン-13C6 (HCB-13C6) 10. その他 () () ng (GC/MS測定試料液への添加量) () %
検量線	作成点数 () 作成範囲: 最小 () ng ~ 最大 () ng 注2) 最高濃度の指示値 ()
試料 注3)	1回目 指示値 () 2回目 指示値 () 3回目 指示値 () 4回目 指示値 () 5回目 指示値 ()
空試験	指示値 ()

注1) サンプル内標準物質とは、「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」では「サロゲート」と表記されている。

注2) GCへの注入量 (ng) を示す。

注3) 測定回数分の指示値を記入する。

分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--